



寒くなってきました。鼻水や咳、熱が心配です。今回は、熱が出たときの解熱剤についてのお話しです。

げねつざい 解熱剤の使い方



- *からだの中にウイルスや細菌が入ってくると、脳は体温を上げて、ウイルスや細菌をやっつけようとします。
このとき、むやみに解熱剤を使用すると、なかなかウイルスや細菌を退治できず、その結果なおるまで時間がかかってしまうことがあります。
- *解熱剤は、熱によるつらさを軽くするためのお薬で、病気をなおすお薬ではありません。
高熱があっても元気であれば、解熱剤を使わなくても大丈夫でしょう。安静にさせることと、こまめに水分補給を続けましょう。汗をかいたら衣服を取り替えます。
- *インフルエンザや水ぼうそうのときは、解熱剤の種類によって脳症をおこすこともありますので、必ず医師の許可を得てから使いましょう。
- *一般的には38.5℃以上でつらそうにしていたり、熱のため食事や水分が取れない状態ならば使ってもよいと考えますが、いずれにしても医師の指示に従ってください。
- *使うタイミングは、決して体温や、大人の都合で決めないようにしましょう。



乳幼児健診について Q&A

Q：市の乳幼児健診と保育所・幼稚園の健診との違いは？

A：○保育所や幼稚園などで行われている内科健診や歯科検診などは、「現在健康であるかどうか」を主に診るために行われています。

○市の乳幼児健診は、子どもの成長発達の節目に合わせて実施され、子どもの成長や発達を確認しながら、生活習慣や離乳食・幼児食のアドバイス、子育ての相談なども行っています。

医師・歯科医師・保健師・栄養士・歯科衛生士など多くの専門職が子育てを応援しています。

Q：健診の時期は？

A：○保育所では年間2回・幼稚園では年間1回、それぞれ保育時間中に実施されます。

○市の乳幼児健診は、4か月、1歳7か月、2歳3か月、3歳5か月健診と10か月相談を実施。

該当者には、個別に案内があります。健診会場は、赤岡保健センターです。